

# 第四百五回 青葉会

令和二年正月五日（日） 吉例初芝居総見 浅草公会堂第二部（13名参加）

新年会 どぜう飯田屋 午後六時半〜八時半（リ）

一月二十三日（木） 初句会 午後一時半〜五時 文京区シビックセンター会議室

## 〈選者〉

◎ 川口孤舟

## 〈出席者〉

今井紀久男 柿崎忠彦 久米五郎太 小西弘子 在間千恵 佐藤ただしげ（忠重）

豊田ゆたか

## 〈投句〉

伊賀山そらお 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 古田昇 星田啓子

宮内規雄 山崎亜也 山田けい子 山内天牛 渡邊盛雄

## 〈紙上選句〉

赤田堅 安部眞希子 川口孤舟 重枝孝岳 庄司龍平 高橋敏郎 早川允章  
福島正明 松崎滋 村田くに子 山本三恵

## 《互選句》

### 六点

◎ 元旦や新語とびかふ家族会

「儲かりまつか」の声聞こゆ初恵比須

### 五点

関西の訛やはらか初句会

出汁（だし）を引く香りに眠る年の夜

点滴に明日を委ねて年明くる

枯れ枝にふくら雀の賑やかに

### 四点

眼福や山の湯宿の深雪晴（みゆきはれ）

落ちてなほ一夜輝く冬椿

一世紀生きよと言ふか初日の出

口上に淑気漲る初歌舞伎

（季重なり）

初場所の小兵力士へ大歓声

後ろ手（こ）の手のひら寒し医者通ひ

盛雄（紀・弘・千・允）  
忠彦（眞・孝・く）

阪神・淡路大震災

盛雄

### 三点

頬に雪天の涙か震災日

◎ 仲見世にブロマイドある初芝居

◎ 初富士や新十年を寿（ことほ）がむ

◎ 新海苔を焙る職人日本橋

◎ 読初（よみぞめ）や大きな活字の目に優し

◎ 浅草の熱気溢れる初芝居

◎ 掻き混ぜる箸に抗ふ寒卵

◎ 初春や若手歌舞伎の声の張り

◎ 「また来る」と幽けき笑みや冬灯

◎ はや梅の蕾膨らむ温暖化

◎ 大寒に貞青なる空広がり

◎ 年の酒名のめでたさよ帝松

◎ シルクロードの果ては淡路の野水仙

### 二点

◎ 山頂のパゴダ輝く古都初日

人日や新しきこと始めたし

演劇の話題賑やか寒の酒

初買ひの枕寝返りつつの夢

弘子（龍・ゆ）  
全（紀・三）

盛雄（紀・敏・正）  
そらお（紀・孤）  
五郎太（眞・紀）

全（紀・敏・滋）  
五郎太（紀・忠・孤）  
全（孤・千・三）

弘子（紀・正・滋）  
健介（孤・正・く）  
忠重（紀・孤・ゆ）

恵洲（眞・忠・孤）  
全（孤・千・允）  
堂哉（孝・滋・三）  
啓子（堅・紀・ゆ）  
蛸雄（孤・千・允）  
亜也（堅・紀・三）  
盛雄（紀・敏・正）

元旦のもてなしまずは白き富士  
浅草の熱氣そのまま初芝居  
湯豆腐や急の転職言ひ淀む  
晴れ渡る山の出湯の初湯浴み  
二日はや歌に見送る吾子一家  
雪起し能登への車中同窓会  
診察待つマスクの友に出くはせり  
風揚げを子らと競ひし好天氣  
初春や襲名待たるる團菊祭  
初芝居はね若手台頭誉めそやす  
初旅や蔵でへべれけ句も詠むで  
わざと負けの孫との歌留多見破られ  
三が日錦で買ひふた品ひろげ  
松明けの寺に飛びかふ外国語  
◎  
(ベトナム人多い豪徳寺)  
鮫鱈鍋まずは肝よと箸出しぬ  
ごま油匂ふ浅草初観音  
初詣無病息災祈りつつ  
おけら火を振り回し祝ふ京の町  
鳥一声放ち臘梅啄みぬ  
晴天下シルバー集ひ初テニス  
木の葉髪病氣自慢の輪に入る  
松取りて仰げば夕べの空蒼し  
冬満月煌煌とわが身照らしけり  
年明くる昭和去ること御代二つ  
◎  
海風に向かふ越前水仙花

千恵 (堅・ゆ)  
全 (紀・く)  
堂哉 (眞・弘)  
ゆたか (紀・龍)  
昇 (紀・た)  
けい子 (紀・正)  
天牛 (紀・た)  
そらお (た)  
紀久男 (允)  
全 (忠)  
全 (く)  
忠彦 (た)  
五郎太 (紀)  
千恵 (孤)

全 (龍)  
全 (紀)  
忠重 (く)  
全 (紀)  
ゆたか (紀)  
全 (紀)  
昇 (紀)  
啓子 (五)  
規雄 (孝)  
亜也 (た)  
けい子 (孤)

✿  
✿  
✿  
✿  
✿

△ 「400回記念句集」配付。天牛さん・正明さん・健介さん出席予定  
△ 今年度会費集金（例年四月ですが早目に繰り上げました）ア寿（壱万円）  
△ 初めて句集に投句頂きました各位には五千円ご送金下されば有難く存じます。  
後日句集を郵送します。（製作費：33万円。250冊）



以上 文責 紀久男

令和二年一月 初句会「青葉会報

一 初芝居は今年も浅草の若手歌舞伎。市原御夫妻ら13名。松也、米吉、巳之助の「七段目」に皆様御満足。はねてからどぜう飯田屋で新年会。ご主人が二階座敷に椅子席を設えてくれました。しこたま呑んで食べ大いに盛り上がりましたこと云う迄ありません。

二 初句会は新人のただしげさんら7名出席。投句は天牛さん・盛雄さん・弘子さんが好成績でした。弘子さんが初の進行役で御覧のように天牛さん・盛雄さん・弘子さんが好成績でした。

400回記念句集の目次(34名)を回覧。  
寄贈は弘子さんからカスタードケーキ(弘前のラグノオ。リンゴとぶどう)。千恵さんの純吟「蓬萊」。小生の「越乃寒梅・別撰」、干し芋(茨城)とおかき。

話題は(一) 猛さんからリハビリを機に退会したい旨のFAXに対し、記念句集完成までおつきあい願いたいと小生からの返事FAXについて、皆様了解。(二) 忠彦さんからワープロ担当を誰かに替わって頂きたい申入れにつき、皆様にご検討のお願い。

三 関係者近詠

竹伐るや父祖相伝のここに絶え 眞希子 炊事場にゴロリと大根置かれけり 規雄  
会ふたびに背ばかり伸びて今年米 全 孤舟選者近詠5句 ―「爽樹」 1月号 宇多喜代子選  
不意の客両手で迎へ茸飯 全

運動会苦手で志願の救護員

全 山伏の法螺霊山の霧迅し  
たわいなく蔓手繰らるる藪枯し 弘子 かなかなの森を大きくしてをりぬ

大風をしのぎてたわわゆつかの実

全 去ぬ燕峽に蒼穹残しけり  
雲重き江差の港島渡る 全 指の間に零す磨ぎ汁今年米

全 松島の侵蝕疲れ冬の風 全 掠鳥の発ち放心の一樹たり

かみなづき神の不在にもう慣れた

全 陽亮 初雪や新型肺炎拡大中 正明

冬立ちぬ妻の無念の涎掛

全 文明と野性の折合ひ雪催ひ 全

色も香も枯れたる菊にして驕る

全 野の葦地球と心中する積り 全

十一月金婚の日の無冠なる

全 教皇の重き発言空つ風 全

冬ざれやこの国の根太腐つて

全 大寒の月光降るや青菜畑 允章

―「森の座」 2月号 枯蓮を鳴らして風の奔るかな 全

―「俳句」 1月号 さあ鍋だ下仁田葱が届いたぞ 全

五 きさらぎ句会500回記念句会 御陵を巡るお濠や冬日燦(仁徳陵) 全

1月29日「白雪」の長寿蔵にて催され、御招待。青葉会400回祝いの返礼として。 志ん馬七回忌追善落語会 紀久男

萬年堂の「お目出糖」を進呈。

寒肥や木霊(こだま)の休む柚子の樹へ 盛雄 麻酔てふ宇宙より帰還寒風ぎぬ 健介

天上に待つ人多し冬北斗 全 退院の希望のドア開く寒の朝 全

飲兵衛のいそいそ開ける寒造 紀久男

六 「松過ぎて年始廻りの役者哉」 初代吉右衛門

今の吉右衛門が小冊子「本の窓」(小学館1月号)に「二代目吉右衛門四方山日記」のタイトルで新連載。趣味のスケッチと滋味溢れるエッセーで読ませます。俳句も詠める筈なんです、兄の白鸚に遠慮して絵に絞っております。芝居好きには見逃せぬ連載です。

令和二年二月十九日

紀久男記